# 會社を閉むる

赤谷慶子

数年にて傘寿を迎ふるの齢（よはひ）、未だ頭脳朦朧たらむ先にと会社閉鎖の段決断せり。株式會社は資本金一千万圓にて設立せり。解散と清算手續きを税理士と司法書士におのおの頼みたれど、數箇月を要したりき。昨年の師走末の解散と定め、清清完了は四月末。解散手續おきののち登記の確定せるはその後二週間ほどの後なりき。

二十五年前に會社設立し、國際會議運營、會議記録作成等と多くの有意義なるいとなみ多かりき。沖繩の主要國脳會議、あるいは一九九八年の冬季五輪大會、國際通貨基金と一橋大學の共同事業、ノーベル經濟學賞受賞達設立せる「平和と安全を考ふる會」東京事務局、而して東日本大震災の追悼式典の登壇者のメッセージを含む多くの英譯も手掛けき。寂しき心地になると思ひきや、爲し遂げたりきといふ充実感に滿たされたり。

大學生の砌、日本と諸外國との懸け橋になるを得る生業に就かむとつねづね願ひてあればその願ひ半ば達したりと思はずんばあらず。一九六四年、米國在住中の十六歳になりしほど、父に書齋へ呼ばれ、「將來女性も男性と同等に肩を並べていとなみする世來たるべし。結婚は最果て就職にはあらず。おのれの經歴を持つを得べく心して學に勵めよかし」と言はれ、未だウーマンリブの聲も聞かぬ時期なりしに、まことかと訝れど、時代は移り變はれり。思ひ返すとも、父のビジョンに先見の明ありとぞ今にして讃嘆せらるる。

（令和八年六月二日受附）